

埼玉県におけるユビナガコウモリの「再発見」

Miniopterus fuliginosus

大沢啓子, 大沢夕志 連絡先: fruitbat@mwc.biglobe.ne.jp

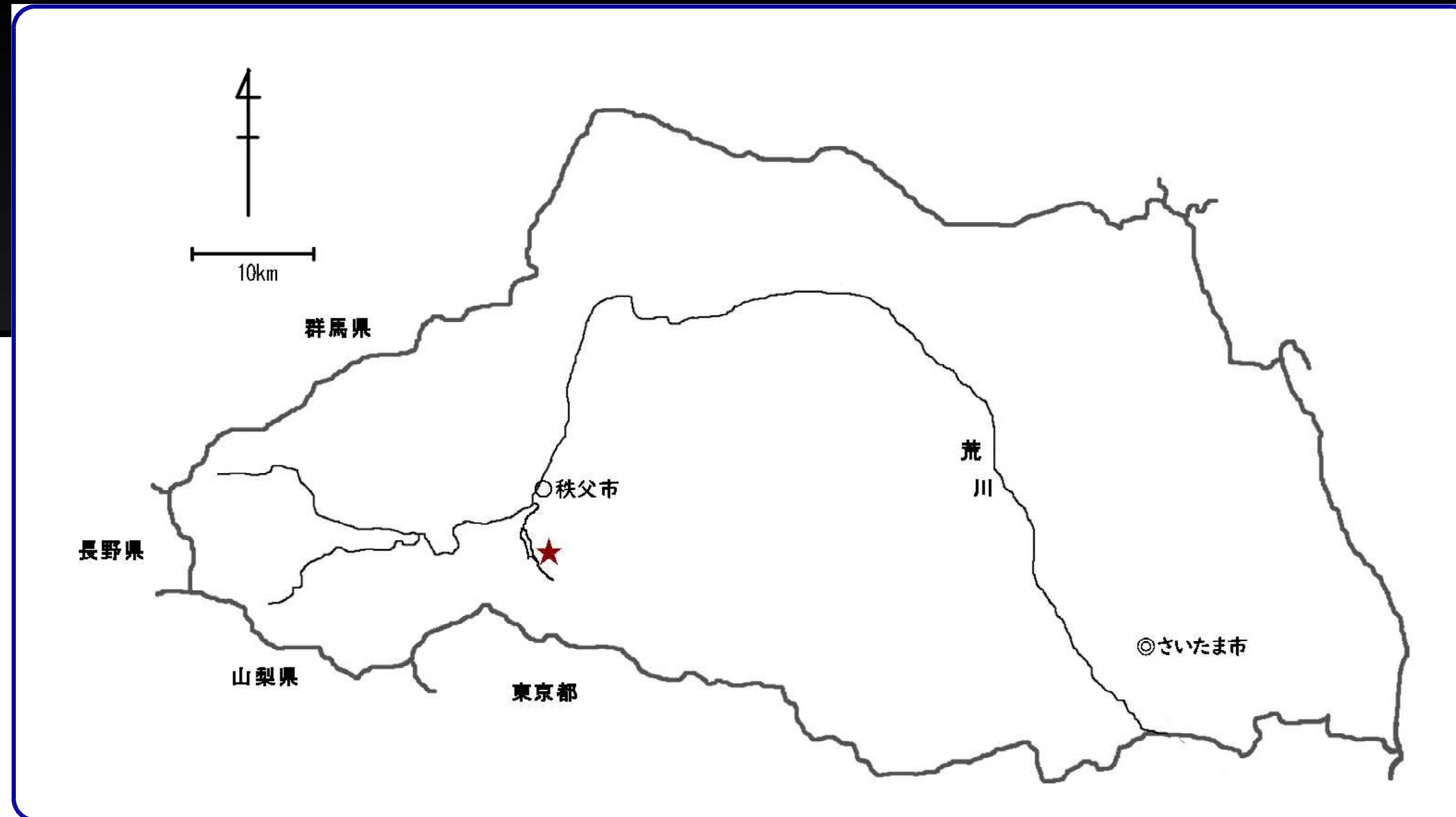
はじめに

ユビナガコウモリ科のユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* は、日本では本州から島嶼部を含む九州に生息しているが、埼玉県においては、浪江(1889)による秩父郡の記録があるのみで、埼玉県レッドリストでは「絶滅」となっている。今回2024年3月14日に埼玉県秩父市浦山にあるトンネルで2頭確認したので報告する。

調査地・方法

埼玉県秩父市浦山にある山摺トンネルは、浦山ダムの右岸、県道73号秩父上名栗線の旧道にあり、延長197m幅4m高さ4.5mで全体にカーブし、中央部に待避所がある。もともと通過車両は希であったが、2024年3月現在車両通行止めとなっている。筆者らは、この山摺トンネルを含む秩父地方の洞窟やトンネルで、随時目視と写真によるコウモリの生息調査を行っている。

図1 調査地位置図(★)



結果

2024年3月14日午前11時頃、山摺トンネルの中ほど、待避所としてトンネルの高さと幅が広がっているために生じた垂直の壁面と天井の角で休むユビナガコウモリ2頭を確認し、写真撮影をおこなった。

ユビナガコウモリは耳介が丸みを帯びて短く、頭は丸く高く、耳介の先端は頭頂部よりも低い(船越 2023)。写真からこの特徴が読み取れ、本州のコウモリでこのような特徴を持つ種は他にいないので、捕獲はせず写真により同定した。

その後2024年4月4日午前11時頃にも同トンネルを調査したが、ユビナガコウモリは見られず、ヒナコウモリ科のモモジロコウモリと思われるコウモリが一頭トンネル天井のコンクリートの隙間にいただけだった。

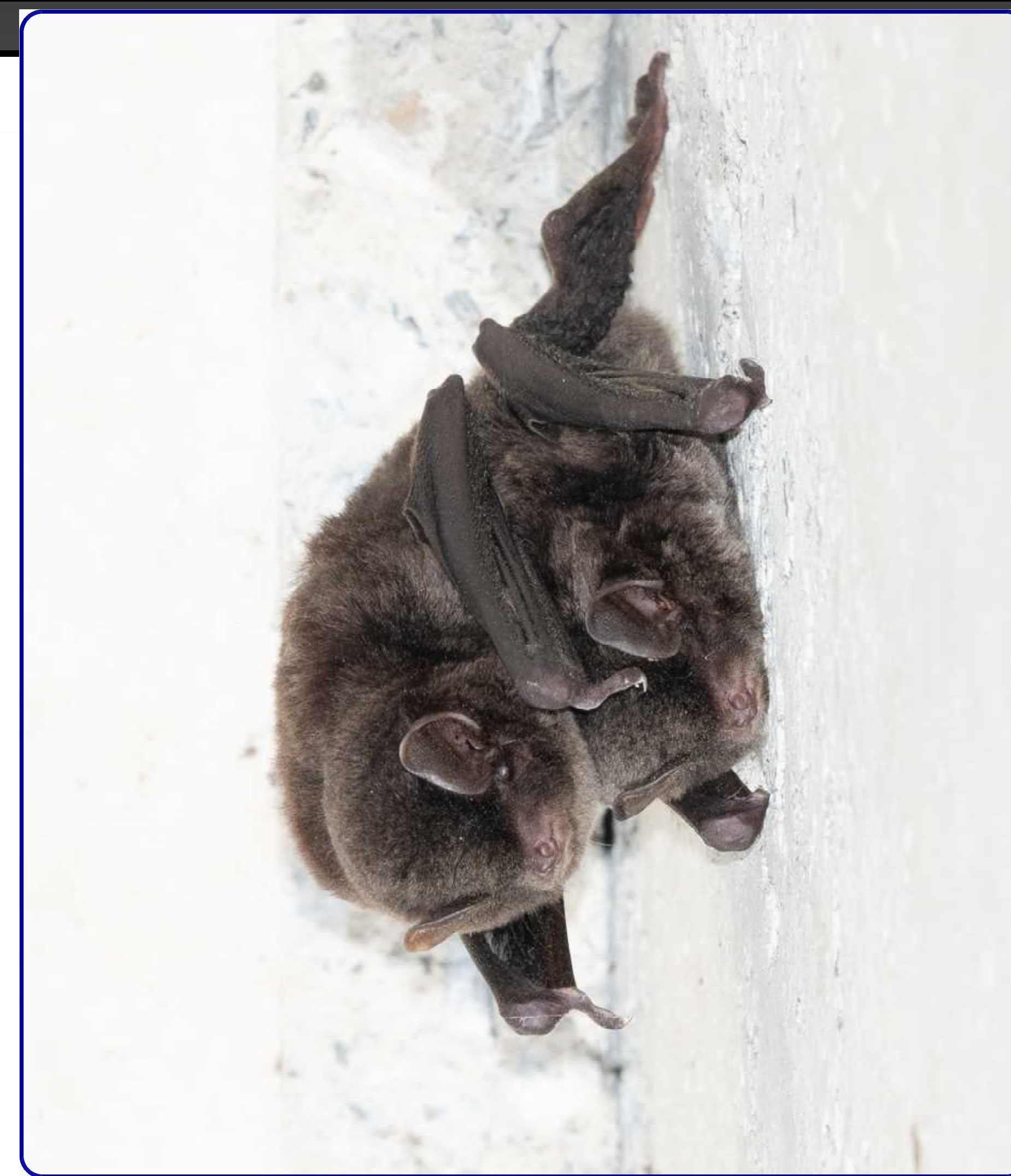


図2 今回見つかった2頭のユビナガコウモリ

考察

ユビナガコウモリは本州、四国、九州のすべての都府県で記録されているが、この中で唯一埼玉県だけは「絶滅」とされている。埼玉県環境部みどり自然課(2018)の記載によれば、明治年間に波江(1889)による報告があるが、それ以外の記録がなく、今回の記録は135年ぶり2例目の記録である。波江(1889)は武州秩父郡より標本を得たと記載しており、捕獲年月日は記載されていないので、実際に捕獲されたのは1889年よりも前の可能性がある。また、越冬中の個体なのか、移動中の個体なのか、出産哺育期の個体のかもわからない。

ユビナガコウモリは、翼の形状が狭長型で鎌状であり、開けた広い空間を高速で飛ぶのに適している。季節的な移動がみられることが知られており、和歌山県西牟婁郡白浜町で出生し標識した個体が、秋季、冬季、春季に和歌山県、奈良県、三重県、滋賀県、福井県の計7ヶ所の洞窟で確認されており、春季の出産哺育地や秋季の越冬地への移動距離は50-70km、個体によっては200km以上にもおよぶ(徐他 2005)。また静岡県下田市の石切洞で標識した個体が滋賀県河内の風穴で確認されており、これは直線距離では約340kmの移動となる(澤田 2005)。

筆者らはこれまで同トンネルと、約1.5km離れた菰の久保トンネルでコウモリ類の観察を行ってきたが、これまでユビナガコウモリは見つかっていない。また、同トンネル周辺を頻りに観察している桑島正充氏によると、今回ユビナガコウモリが記録された日の前日を含む2023年12月13日、27日、2024年1月17日、2月14日、3月13日、27日、4月10日、5月15日にトンネル内を観察したがユビナガコウモリはいなかったとのことである。

135年前の記録以外に県内で観察された事例がないこと、春季の越冬地から出産哺育地への移動の時期であることから、移動中の個体が一時的に利用していた可能性が高いと考えられる。

ユビナガコウモリは、埼玉県レッドリストでは「絶滅」とされており、今回「再発見」となるが、地方版レッドリストにおいては、当該地域を越えて越冬地と出産哺育地を移動する種における「絶滅」のランクのあり方を考える必要があるだろう。

都道府県	レッドリストランク
茨城県	絶滅危惧IB類
栃木県	準絶滅危惧
群馬県	情報不足
埼玉県	絶滅
千葉県	一般保護生物
東京都(本土部)	絶滅危惧II類
神奈川県	絶滅危惧II類
山梨県	情報不足
長野県	絶滅危惧IA類
静岡県	準絶滅危惧

表1 関東近県におけるユビナガコウモリのレッドリスト掲載状況

謝辞

貴重なデータを提供していただいた桑島正充氏、文献等についてアドバイスをいただいた(有)アルマスの佐藤頭義氏には厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 船越公威, 2023. ユビナガコウモリ. 識別図鑑日本のコウモリ, 文一総合出版.
波江元吉, 1889. 日本に栖息する蝙蝠の話(第廿八版). 動物学雑誌, 1:338-339.
埼玉県環境部みどり自然課, 2018. 埼玉県レッドデータブック動物編2018(第4版). 420P., 埼玉県環境部みどり自然課.
澤田勇, 2005. バンディング法によって明らかにされたコウモリの飛行行動について. 長崎県生物学会誌, 59:1-7.
徐華・前田喜四雄・井上龍一・鈴木和男・佐野明・津村真由美・橋本肇・寺西敏夫・奥村一枝・阿部勇治, 2005. 和歌山県白浜町で出生したユビナガコウモリ, *Miniopterus fuliginosus*の移動(1) 2003, 2004年. 奈良教育大学附属自然環境教育センター紀要, 7: 31-37.